03

リテールビジネス

リボ払いを利用する高金融リテラシー若年層の実像

若年層のリボ利用者には金融について高いリテラシーをもつ層があることがわかった。リボの商品性を理解した上で、今だけの体験や利便性のために割り切ってリボを活用している。貸倒リスクが低く中長期的なLTVも見込めるこの層をいかに取り込むかが鍵となる。

広がるリボ払いと潜むリスク

近年、クレジットカードのリボルビング払い・分割払い（以下、リボ払い）の利用が広がっている。野村総合研究所（NRI）の推計では利用者は890万人に達する。クレジットカード会社は、加盟店手数料率の低下・急増する不正利用被害への対応コスト増などで厳しい収益環境となっており、高収益なリボ払いの取り込みが重要な課題となっている。

リボ払いの拡大が無秩序に進めば、経済環境の悪化局面で貸倒損失が膨らむ恐れがある。指定信用情報機関（CIC）のデータによれば、直近3年間でクレジットカードの延滞者（異動情報件数）は2割以上も増加している[1)]。こうした環境では、より一層、利用者の動向を丁寧に把握することが重要である。

本稿では、当社が実施した「NRI生活者一万人アンケート調査（金融編）」を用いて、特に若年層（20代以下）のリボ利用者を深掘りする。若年層のリボ利用は「金融リテラシーが低く、無計画である」というイメージがあるが、データを精査すると、それとは真反対の高リテラシーの利用者層が相当数存在していることが浮かび上がった。

国際的なスタンダードとなっている金融リテラシーに関する設問による20代以下のリボ払い利用者正答率を基に、正答率5割未満の「低リテラシーリボ層」と、5割以上の「高リテラシーリボ層」に分類した[2)]ところ、低リテラシーリボ層約80万人に対し、高リテラシーリボ層も約70万人存在すると推計された。この後者の「高リテラシーリボ層」の実像がどのようなものかを分析した。

「割り切って」リボ払いを利用する高リテラシーリボ層

金融リテラシーの調査では金利・複利への理解も確認していることから、この層はリボ払いの商品性を理解する力を有していると考えられる。また、リボ払い自体はいわゆる「金融商品」とは違うものの、高リテラシーリボ層は、金融商品購入時に「金利・手数料の比較を必ず行う」割合が、低リテラシーリボ層や、同年代のリボ非利用者と比べて高い。これらを踏まえると、この層の多くは、商品性を理解した上でリボ払いを利用している可能性が高い。

では、高金利の利払いがあると理解しながら、なぜこの層はリボ払いを利用しているのだろうか。

その一つのヒントとなり得るのが、余暇で積極的に支出している対象である。同世代と比較して、外食や旅行等の余暇活動に積極的にお金を使う割合が高く、例えばこの層で国内旅行に積極的にお金を投じる割合は4割超と、同世代平均と比べて1割以上高い。一方、ギャンブル系の余暇活動に積極的に支出する割合[3)]をみると、ほぼリボ非利用者並である。

推察の域を出ないものの、この層は、今だからこそできる体験を重視しており、そのためにリボ払いを活用していると考えられる。

またこの層は生活の利便性向上を重視している。そのための出費もリボ払いに至る一因と考えられる。具体的には、Amazonや楽天といったECサービスの利用率が同世代内で比較しても高いほか、この層は「人より先に新しい商品やサービスを利用する」割合が同世代比で高

野村総合研究所　金融ITイノベーション事業本部 事業企画室　©2026 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

NOTE

1) 指定信用情報機関である株式会社シー・アイ・シーの登録情報によると、異動情報人数（約定返済日より3か月以上支払いが延滞している人数）は、同期間に125万人から156万人に伸びている。包括クレジットでの割賦残債額登録者数（リボ払いや、クレジットの利用から返済までが2か月を超える1回払いの残債がある人）は、直近3年間で1,777万人（2023年2月）から2,033万人（2026年2月）に増えているが、異動情報人数の伸び率は、割賦残債額登録者数の伸び率を上回っている。（出所：株式会社シー・アイ・シー「割賦販売統計データ」）
2) 経済協力開発機構（OECD）が金融経済教育に関する国際ネットワーク会議参加国に対し行っている調査の設問を踏襲。具体的には、①金利の理解（元本と年率に基づく1年後の預金残高の計算）、②複利の理解（同条件における5年後の預金残高の推移）、③インフレーションの理解（高インフレ時における物価動向の正誤）、④リスクとリターンの理解（リターンの多さとリスクの高さの相関関係の正誤）、⑤分散投資の理解（個別株式と株式投資信託の安全性の比較）、を確認する5問で構成される。閾値は、リボ非利用者も含めた全世代（18-79歳）の平均正答率とほぼ同じ5割で設定しており、20代以下に限れば世代平均正答率は4割台前半である。
3) 「競輪・競馬・競艇」「パチンコ・パチスロ」に余暇で積極的にお金を使っている人の割合。
4) 日本貸金業協会（2025）「資金需要者等の借入意識や借入行動等に関する調査」。

い層でもあり、（有料プラン利用割合は不明なものの）昨年夏の調査時点でChatGPTの利用率も5割に達している。利便性重視の姿勢は、金利の高さを理解しつつも、他の個人向けローンを使うのではなく、利便性の良いリボ払いを割り切って使うことにつながっていると考えられる。

高リテラシーリボ層のバックグラウンド

こうした経験の重視や生活の利便性向上のためのリボ払いの背景には、返済見通しがある程度立てられていることがうかがえる。

まず若年層共通の特徴的な属性として、家計収支の安定が近々見込みやすいことが挙げられる。日本貸金業協会の調査では、借入経験のある20代以下の約3割が直近1年間で家計収支が改善したと答えており、この数値は他世代比で高い[4]。そして高リテラシーリボ層に限っても、同層の6割以上は会社員・学生が占めており、安定的な収入増加が見込みやすい。また、親の生活水準が平均（中の中）以上であると回答した割合が約7割に上っており、万一の場合も親族の資金的支援が期待でき、貸倒リスクは低い。

加えて、高リテラシーリボ層のうち、将来のマネープランを何らか考えたことがある人の割合は約6割と、同世代平均の倍近いほか、約3分の1が現在進行形で家計簿アプリを用いている。この層は、現在と将来の資金の見通しを大まかにつけながら、今の経験や利便性のために割り切ってリボ払いを利用していると推察される。

図表　高リテラシーリボ層の主な特徴

1	リボ払いの構造を理解した上で、リボ払いを利用している
2	今しかできない経験や、生活の利便性向上のためにリボ払いを利用している
3	将来の収入増等を見据えてリボ払いを利用している

（出所）野村総合研究所

高リテラシーリボ層の取り込みに向けて

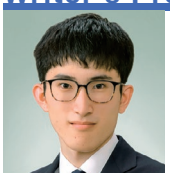
ここまで、高リテラシーリボ層に着目して分析を行ってきた。この層は、リボ利用者全体の中では規模の小さな層だが、顧客の生涯価値（LTV）に鑑み魅力的である。

この背景は、（先述の通り）貸倒損失が発生するリスクが少ないことに加え、この層に安定的な収入増が見込みやすい会社員や学生が多く、中長期的にカード決済額の増加が期待できることが大きい。

またカード事業以外も展開する企業にとっては、他サービスとのクロスセルも期待し得る。特にこの層が人より先に新しいサービスを利用しやすいことに鑑みると、新サービス展開時に効果的に巻き込める可能性がある。

こうした魅力を持つ高リテラシーリボ層をいかに取り込んでいくか。彼らの特徴的な支出シーンや、利用媒体等を踏まえたマーケティングが求められる。

Writer's Profile



小宮山 俊太郎 Shuntaro Komiyama
金融コンサルティング部
シニアコンサルタント
専門は事業会社金融、コンテンツ
focus@nri.co.jp